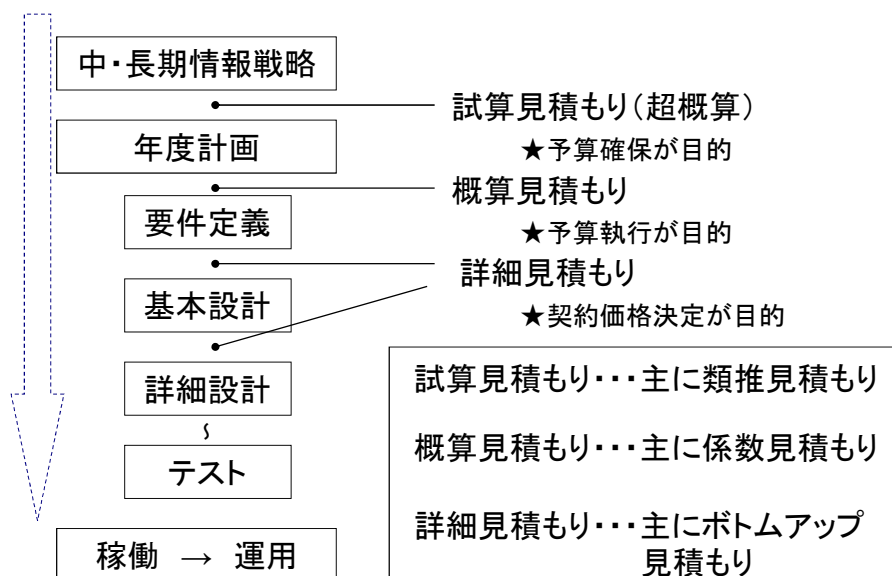


# ITベンダーの見積を 適正に評価するための FP法の活用

## ソフトウェアライフサイクルにおける見積もりタイミング



## FP法による概算見積り

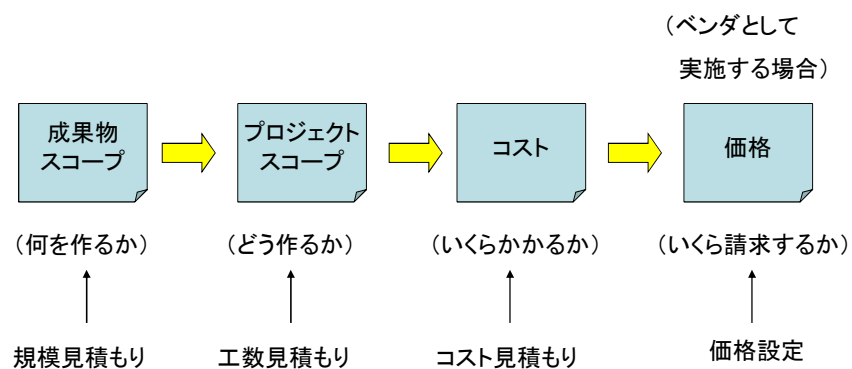
代表的なもののFP数 × 概算量

(画面数  
帳票数)

(または)

- 過去の実績
- 同種のシステムのFP値

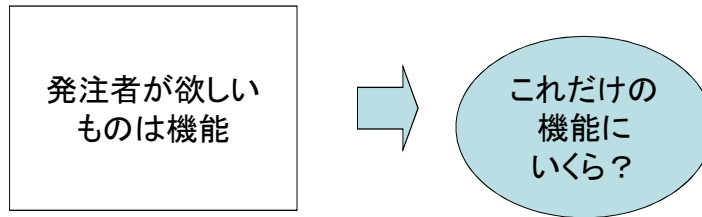
## スコープ～価格設定までの流れ



## 見積手法としてのFP法

・機能(ファンクション)を見積もるもので、コストを見積もるものではない。

(前提)



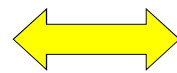
作り方(生産性)は、ベンダの努力にまかせればよい。

## FP見積の評価(1)

(発注者)



(提案者)



差異が大きい



過小見積・過大見積もりが  
発生している可能性大。

## FP見積の評価(2)

(提案者1)

見積  
FP値



見積  
金額

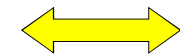
=

(提案者2)

見積  
FP値



見積  
金額



差異が大きい

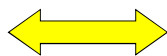


成果物スコップは同じだが、プロジェクト・スコップが違う  
原因は ・ 生産性の差？ オーバーヘッド？ リスク？

## FP見積の評価(3)

(過去の提案)

前提  
生産性



差異が大きい

(今回の提案)

前提  
生産性

システムや開発スタイルは同様なのに...



生産性が変わる要因について説明を求める。

\* 過去のプロジェクトにおける実績データがあれば、評価が容易。



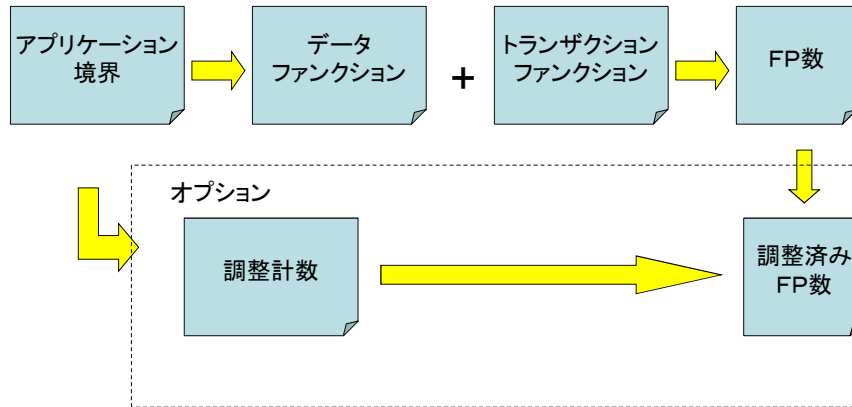
工数が分からなければ金額で。

(最終的にはコストは把握できないことが多い)

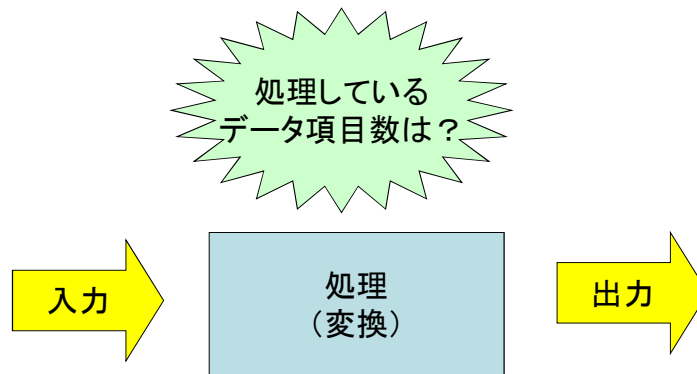


より良い値を前提に... ベンダと交渉

## FP(IFPUG)法における計測の手順



## 情報処理(コンピュータ)の基本



\*これを、どれだけ行っているかを見る。

➡ これが見えるドキュメントが必要。

\*データの洗い出しが必要(ER図の併用等)。

## 工数の算出

FP数に規模を掛け合わせて、工数を算出する。

$$\text{工数} = \text{FP数} \times \text{生産性}$$

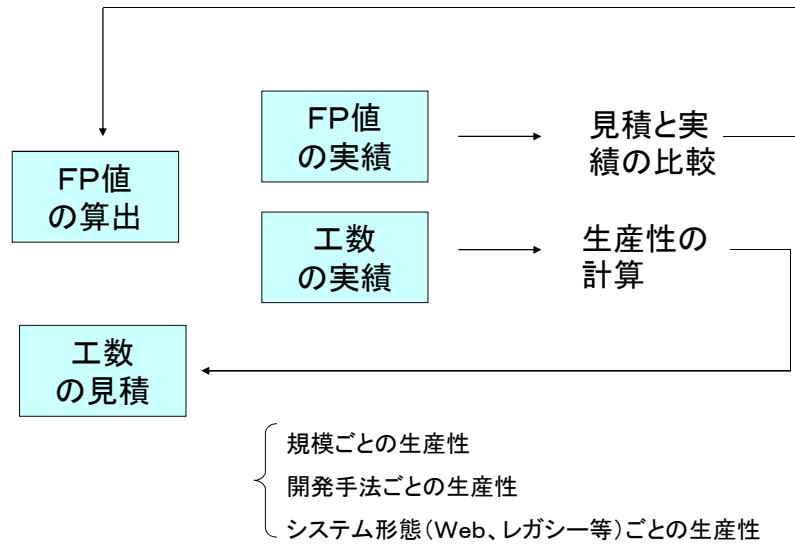
⇒ 生産性は、公開された数値等、参考になるものを  
まずは適用し、実績データを基に精度を上げていく。

(参考) 1FP : COBOLで50～160行  
(平均で105行)  
と言われていました。

## 見積もりの妥当性検証

- 複数の担当者による見積もり  
例: 開発担当者－営業担当者
- 複数の手法による見積もり  
例: FP法による見積もり－ボトムアップ見積もり
- 複数の工程での見積もり  
例: 提案段階での概算見積もり  
－要件定義後の詳細見積もり

## 繰り返しによる基礎数値の改訂



## FP法の妥当性について考える

FP法は完全なものではない。(という限界を知っておく)

➡ 妥当なものであるか、心証を得ることが必要。

➡ 何を基にFP数を算出しているか？

〔 (前提となる業務モデルは適切？)

〔 (データは洗い出しできている？)

➡ この2つができていれば、それなりの精度に。

## 生産性について

生産性は、開発手法によって、まちまち

- ➡ 開発方法論はベンダにまかせてよい。
- ➡ 機能数と金額については、ベンダと合意。
- ➡ 機能数が想定よりも増えなければ、追加費用は認めない。(ただし、仕様変更による手戻りは別)



いったん、外部設計後に確定できるはず。

\* 複雑性は、どう評価するか？

- ➡ 非機能要件について合意しておく。
- ➡ FP的にはシステム特性におとして、合意。

## 契約的には

一括請負は、内部設計(詳細設計)以降にするのが安全。

(FPが明確に計算できるため)



前提となる条件を明確に契約書(別紙)に反映しておくことが望ましい

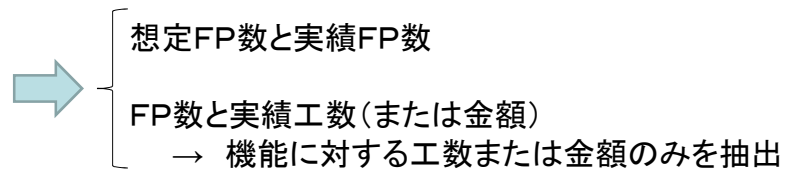
- FP数
- 非機能要件  
(性能, キャパシティ, 信頼性, 拡張性, セキュリティ)



ベンダの契約条件達成度合いを客観的に評価できるように



FP法の活用を促進するために  
実績データを収集して活用できるようにする。



業務モデルを作成し、維持する。

→ けっこう、たいへんだが、やる価値あり。



ITコーディネータが代行してあげることもありますね。

\*「日本の会社は業務モデルをきちんと作らないんだよ！」という声もありますが…。(^;)

最後に…

継続こそ  
力なり！！

たった1回で、金額見積りの適切な評価はできません。

(付録)

詳細な資料が欲しい場合は、以下のページで

- ・ ISBSG開発データレポジトリ  
<http://www.jfpug.gr.jp/information/isbsg.htm>
- ・ IFPUG出版物と翻訳版  
<http://www.jfpug.gr.jp/publication/top.htm>

研修コースを提供しています。

- ・見積り力養成講座(2日間)  
講義:ソフトウェア開発の見積もり技法  
演習1:スコープ定義  
演習2:FP法による見積もりⅠ  
演習3:FP法による見積もりⅡ  
演習4:FP法による見積もりⅢ  
演習5:WBSに基づくボトムアップ見積もり

派遣型  
研修

ご相談ください。